

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 8 日現在

機関番号：13501

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26370313

研究課題名(和文) “Home” を離れた女性たち：グローバル化時代のアイデンティティ

研究課題名(英文) Away from Home: Woman's Identity in Globalizing World

研究代表者

澤田 知香子 (SAWADA, Chikako)

山梨大学・総合研究部・教授

研究者番号：00456493

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：人、モノ、情報などがさまざまな境界を越えて行き交うグローバル化時代の現状に照らし、“home”というテーマに注目し、“home”(家庭、故郷、故国)を離れた女性作家たちとその作品の考察・分析を通し、このような現代社会に生きる女性のアイデンティティ構築をめぐる問題を探った。
研究期間内の成果として7編の論文を発表し、国際学会で口頭発表を行った。また、関連分野の研究者らと交流し、彼らを招いて主要研究対象やテーマについての講演を企画実施することで教育現場での成果発信を行った。

研究成果の概要(英文)：This study considered and analyzed issues concerning the construction of female identity, focusing on the theme of "home" in this age of globalization. It dealt with a variety of texts produced by female writers who left home and survived in such a globalizing world, where people, things and information kept coming and going, transgressing all kinds of borders, and tried to clarify what "home" could signify for contemporary women and how it could affect them.
On the theme of "home" and women, seven articles, which discuss women's bodies and languages, transformations and survival strategies, have been published and one paper has been given at an international conference. In relation to this research, three special lectures by Canadian writers and a British researcher have been held for university students.

研究分野：人文学

キーワード：英語圏文学 home globalization 女性の自己形成 女性の身体・言語

1. 研究開始当初の背景

20世紀における二度の世界大戦後、目覚ましい発展を遂げた情報技術や複製技術の進歩により、グローバル化が急速に進み、様々な物事の境界は曖昧なものとなってきた。情報を含むあらゆるものや人が世界をめぐる、この「ポストモダン」時代における国家や個人のあり方は、多くの研究分野において論じられてきた。

「“Home”を離れた女性たち：グローバル化時代のアイデンティティ」は、本課題研究者が主たる研究対象としてきたエディンバラ出身のミュリエル・スパーク(1918-2006)を中心に、彼女の同時代から現在に至るまで英語圏で活躍する女性作家たちの人生と作品について行ってきた研究が基盤となっている。

スパークはユダヤ人の父を持ち、第二次大戦末期に南アフリカで短い結婚生活を送った後、カトリックへと改宗したのと時期を同じくして作家デビューした。1960年代に国際的作家としてアメリカで暮らし、さらにイタリアに渡って生涯を終えた彼女は自発的な“exile”として知られている。このような経歴を持つ作家自身がポストモダニストを自認する一方で、多くの批評家はカトリック改宗の事実、“Jewishness”や“Scottishness”との関連で彼女の作品を論じてきた。2009年にマーティン・スタナードの *Muriel Spark: The Biography* が刊行され、作家の知られざる側面が明らかになると、スパーク研究は新しい段階に入った。長年、「神のような作家」の準創造という解釈が定着していたスパーク作品のメタフィクション構造は、近年になってポストモダニズム理論の批評用語で論じ直され、*The Edinburgh Companion to Muriel Spark* (2010)に見られるような、より新しい、より広い視点で見直そうという試みがなされるようになってきた。

本課題は、カトリック作家や世代の枠といった従来の枠を離れ、いちはやくスパークの

フィクションとポストモダニズムを相互に照らし合わせて解明しようとした本課題研究者独自の研究を基盤としている。境界を越えた経験を持つ女性作家たちと多角的に比較することでスパーク研究に新たな局面を開き、また、スパークを中心とした現代女性作家たちの人生と作品を通して現代女性のあり方と“home”(家庭、故郷、故国)の関係に注目し、“home”を離れて生きた女性たちの視点や思想を現代社会のリアリティや現代人のアイデンティティに関わる問題と結びつけて考察しようとしたものである。

2. 研究の目的

本研究では、このポストモダン時代に境界を超えて生きた女性作家たちの作品と実人生を互いに照らし合わせ、彼女らと彼女らが描く女性たちの自己構築の試みを浮かび上げさせようとした。また、それらの作家たちが活躍するのと同時代に急速に発展したフェミニズム理論と絡め、女性をめぐる問題の背景を明確化することを目的とした。

個々の文学的テキストや伝記的資料に表れるイメージや表象の比較分析を行うにあたり、体系的考察を可能にする、より大きな共通テーマのもと、しばしば重層的なものとなる“home”の意味やイメージ、表象の具体例を示し、個人と“home”の関係が生み出す問題を多角的に提示した。この考察を通して、特に女性にとってのアイデンティティ構築における今日の条件や可能性が“home”とどのように関係するのかを明らかにしようとした。

故国を離れた作家たちの多岐にわたる体験に取材することで重要かつ普遍的テーマとしての“home”の表象や意義を考察しながらも、本研究では、より新しい時代に即し、女性が“home”を捨てる、“home”から逃げる、というテーマに重きを置いた。これは、第一に家庭・家族としての“home”に関連し、主にスパーク小説における家族の構図と暴力、

流血といったモチーフに注目することで、考察のひとつの軸として新しい“home”の表象をあぶりだし、独自の観点を提示することを目指したからである。

今日のグローバル社会では、様々な意味で境界を越えることが容易になり、それにつれて個人のルーツやオリジンへの感覚が希薄になっている。本研究は、そのような現代におけるアイデンティティ構築という我々自身の問題について学び、理解する契機となることを目指し、それを直接的に新しい世代とともに考えることを目標とした。以前より授業や指導の枠内で研究成果を活かし、それに対するレスポンスを研究活動の参考としてきており、本研究の一環として、グローバル人材となり境界を越えるポジティブな意欲を促す一助とすべく、海外の作家や研究者から本テーマ関連の話聞く機会を設け、教育活動に役立てることを目指した。

3. 研究の方法

本研究を進めるにあたっては、以下の3点を柱とした。

本研究の出発点・軸となるスパーク研究。この作家の人生や思想を伝記的事実に照らして探るため、スコットランド国立図書館における定期的なアーカイブ調査。アーカイブ管理者であるキュレーターと伝記作家への取材。課題テーマとの関連で選定した一次テキストの再考察。

本研究で扱うスパーク以外の女性作家の一次テキスト及び二次資料、また、“home”とアイデンティティをめぐるテーマ関連資料の収集、分析、検討。

上記資料の分析・検討の成果発表としての論文発表、国内外における学会発表、情報及び意見交換。海外の作家・研究者を招いて本課題関連ディスカッションやトークの場を設け、研究活動と教育活動の相互的な発展を目指した研究成果発信。

1 スパーク研究・アーカイブ調査を上述の計画通り行った。スコットランド国立図書館のスパーク・プロジェクト・キュレーターであるコリン・マッキロイ氏との情報・意見交換は現在に至るまで非常に有意義なものとして継続的に行っており、2018年以降の研究計画にも活かされている。

2 これまでに行ってきたミュリエル・スパーク研究、ポストモダニズム理論・批評研究、現代女性像をめぐるテキストやフェミニズム理論・批評研究を基に、本研究課題の考察対象として取り上げるべき作家としてドリス・レスリング、アンジェラ・カーターに加え、クリスティーナ・ステッド、アーシュラ・ル＝グウィン、あらたに開拓したカナダの現代女性作家作品を検討した。重要な一次テキストを概観し、現代の越境者としてスパークと比較検討するうえで、それぞれのテーマにふさわしい中心テキストを定めた。

研究を進めるにつれ、研究対象テキストはアーシュラ・ル＝グウィンやエイミー・ベンダーらアメリカ人作家や、カナダで活躍中のラリッサ・ライの小説へ拡大、移行した。

「“Home”を離れる」というテーマを追求していくにあたり、関連する文学研究の分野を概観し、主としてポストコロニアリズムとの関係で英語圏出身の女性の文学に焦点をあてつつも、ポストコロニアルな視点に限定されない独自のアプローチを探った。このテーマに関しては新たに探求していった分野であり、日本英文学会をはじめ、関連学会に参加して情報・資料収集を進めた。女性のアイデンティティ考察に関しては、カーターの作品を中心にファンタジー作品研究を行う一方で、スパークとレスリングの南アフリカ生活に取材したテキストの読み直しを通して、“home”を離れた女性のアイデンティティ考察を深めた。

3 研究を進める中で開拓していった分野や本課題テーマに関連した講演会を開催し

た。上述のキュレーター、マッキロイ氏、現在もカナダで活躍中の作家ヒロミ・ゴトー氏やラリッサ・ライ氏をゲスト・スピーカーとして本課題研究者の所属機関に招き、大学生に向けた講演を企画・実施することにより本課題の重要テーマを提示する場とした。

4. 研究成果

現代女性のあり方と“home”(家庭、故郷、故国)の関係に注目し、スパークを中心にバラエティに富むユニークな女性作家たちを多角的に比較することで、現代社会のリアリティや現代女性のアイデンティティに関わる問題を独自の視点で考察し、7編の論文を発表した。これらの論文においては、“home”という主要テーマを軸に、女性の語りと言語、女性の変身や身体、それらの新たな表象など多岐にわたるモチーフと絡めて論じた。

本研究を通して、研究対象分野を拡大する中で現代カナダ文学に触れ、多文化主義に関わる複雑な問題を孕む国家で複雑なルーツを持って生きる人々の視点についての考察を深めた。そのような今日の問題提起への意識が高く、マイノリティとしての視点に非常に敏感な作家たちの作品を分析するとともに、作家たちを招いて自らの声で学生たちに語ってもらう機会を設けることもできた。

長期にわたって継続しているスパーク研究への新しいアプローチを探る一助として、マッキロイ氏とスパーク研究最前線の情報・意見交換を行ってきたほか、国内のスパーク研究者(スパーク作品翻訳者の木村政則氏)や現代女性作家(芥川賞受賞作家の藤野可織氏)とも意見交換を行い、今後の発展に向けて新たな研究計画を立てる事ができた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

{雑誌論文}(計 7件)

1 澤田 知香子 「アダムなき世界のイヴ

たちへ: ウルフ、カーターからラリッサ・ライまで」『カナダ文学研究』第24号 2016年 81~97頁 査読有

2 澤田 知香子 「National Library of Scotland, Muriel Spark Archiveの現在」『山梨大学教育学部紀要』第1巻 2016年 85~92頁 査読無

3 澤田 知香子 「Muriel SparkとExile—シエイエツト論考を読む」『山梨大学教育学部紀要』第1巻 2016年 77~84頁 査読無

4 澤田 知香子 「ラリッサ・ライのハイブリッドな娘たち 女たちの新世界」『カナダ文学研究』第23号 2015年 73~87頁 査読有

5 澤田 知香子 「女性が語る女性の変身: 語りのApprenticeとDaddy's Girl」『関西英文学研究』第6号 2015年(支部統合号) 167~174頁 査読有

6 澤田 知香子 「Girls Are Not at Home: Exiled in Colony」『山梨大学教育人間科学部紀要』第17巻 2015年 53~58頁 査読無

7 澤田 知香子 「Rereading *The Golden Notebook*: Personal Voices of Woman Speaking for Universality」『山梨大学教育人間科学部紀要』第17巻 2015年 59~66頁 査読無

{学会発表}(計 1件)

1 澤田 知香子 「Girls Are Not at Home: Exiled in Colony」International Conference on Identity: Representation and Practices, University of Lisbon, Portugal 2014年9月12日

{その他}

ホームページ等
山梨大学研究者総覧
<http://erdb.yamanashi.ac.jp>

6. 研究組織

(1)研究代表者

澤田 知香子 (SAWADA, Chikako)
山梨大学・総合研究部 教授
研究者番号: 00456493